

【 日 出 町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校）

調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校 6年生 国語	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
	全体	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
		言葉の特点や使いかに関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと						
全国	60.9	66.8	52.3		65.8	45.7	65.9	62.0	60.1		61.9	62.6	54.9
県	63.0	69.9	53.6		66.9	45.4	68.5	64.5	61.2		62.6	67.0	58.9
日出町	63.0	69.8	56.3		68.8	41.8	70.7	65.3	61.6		63.7	65.3	59.7

○教科全体の平均正答率は、全国平均を2.1ポイント上回っている。

○「読むこと」における領域の正答率が高い。

○領域等別平均正答率で、領域別平均正答率「思考力・判断力・表現力等」の「書くこと」が、全国の正答率を下回っていた。

（課題が見られた問題）

- ・調べ学習、レポートにおける工夫の問題で、選択肢中の語句が分かっていない
- ・条件に沿って文章を書けていない。（題名を入れる、「 」を入れる。）

小学校：算数

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校 6年生 算数	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率			問題形式		
	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	56.4	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6	60.1	45.4		56.0	59.7	48.5
県	58.0	62.3	56.5	77.9	39.1	50.6	61.1	48.3		57.2	60.5	52.0
日出町	55.0	58.4	53.7	74.1	38.9	46.9	58.1	46.0		54.2	58.2	48.1

○教科全体の平均正答率は、全国平均を1.4ポイント下回っている。

○領域別正答率では、全ての領域で全国平均を下回った。特に、測定と数と計算の領域の正答率が低かった。

（課題が見られた問題）

- ・数直線と分数の関係を表す問題。分母の違う分数の大きさを比べる問題。
- ・二次元の表から条件に合う数を読み取る問題。

○観点別では、「思考・判断・表現」の分野で全国平均を上回った。

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校）

調査結果の分析

中学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
中学校 3年生 国語	全体	言葉の特点や使い方に 関する事項	情報の扱い方に関 する事項	我が国の言語文化に関 する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと						
全国	63.9	63.0	70.4		63.9	67.4	59.7	64.2	63.7		72.7	55.8	45.5
県	64.0	62.3	68.3		64.1	67.0	60.0	63.3	63.7		71.4	56.8	46.8
日出町	65.0	65.0	71.1		64.6	68.8	60.3	66.0	64.5		74.7	55.1	46.6

○教科全体の平均正答率は、全国平均を1.1ポイント上回っている。

○領域別平均正答率、評価の観点別平均正答率全てにおいて、全国平均を上回っている。

（課題が見られた問題）

- ・自分の考えをまとめたり、確かなものにしたりする問題での無回答率が高い。
- ・話し合いの結論を導くために、自分の考えをまとめて書く。
- ・文章から理解したことを踏まえ、考えを確かなものにする。

中学校：数学

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
中学校 3年生 数 学	全体	数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	57.0	67.8	48.7	54.8	53.5	63.0	39.1		59.3	64.2	39.1
県	55.0	65.4	43.5	55.2	52.8	61.0	36.5		57.9	62.0	36.5
日出町	62.0	68.4	55.2	61.1	61.7	67.9	44.5		61.1	70.2	44.5

○教科全体の平均正答率は、全国平均を5ポイント上回っている。

○領域別平均正答率、評価の観点別平均正答率全てにおいて、全国平均を上回っている。

（課題が見られた問題）

- ・問われていることを理解して、条件の中から吟味して選ぶ問題。

中学校 3年生 英 語	平均IRT スコア	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
		聞くこと	読むこと	書くこと		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	499	62.8	60.0	43.1		59.7	52.8		61.4	55.8	39.7
県	484	59.0	57.5	39.8		57.4	49.3		58.3	53.5	36.1
日出町	499	61.3	60.6	44.7		64.7	51.6		61.0	62.7	38.5

※正答率欄の数値は、「予測正答率」を含んだ数値。「予測正答率」とは、日出町生徒に出題されなかった公開問題について、全国の解答状況に基づき、日出町各生徒と同程度のIRTスコアにおいて期待される正答率を指す。

- 教科全体の平均 IRT スコアは、全国平均と同等であった。
- 平均 IRT スコアは、全国とほぼ同等で、県よりも上回っている。
- 「読むこと」は、0.6 ポイント、書くことの数値は1.6 ポイント全国値を上回っている。
- 話す活動を授業で行っていることで、全国比べて無回答率は低いと考えられる。
(課題が見られた問題)
- ・ある程度まとまった英文を読んだり、聞いたりして、その内容や要点をとらえる問題。

具体的な改善方法

□ 各教科の改善策

【国 語】

- 指導事項を明確にした授業を行う。また「前学年までの漢字の読み書き」(教科書)を大切に扱ったり、主語・述語・修飾語、故事成語等を定期的に振り返ったりする等、既習内容を振り返る場を意図的に設定する。
- 漢字のおもしろさ(成り立ち・部首含めて)や文法の意義等の指導を行うとともに、学習した言葉の力が生かせる場の設定をする。
- 文学的な文章や説明的な文章の特徴を押さえた指導を行う。また、複数の情報から、必要な情報を選び、条件に沿って表現する場を設定する。
 - ・(文学的な文章) 叙述や話の展開から登場人物の行動や心情等を捉える学習
 - ・(説明的な文章) 文章構成や段落相互の関係を捉え、内容の把握をする学習(学年に応じて)
- 国語で使われる用語の指導
 - ・場面 心情 描写 情景 要点 要約 要旨 問いと答え 事例 理由 事実と感想・意見 抽象と具体 等
- 複数の情報から、必要な情報を選び、条件に沿って表現する場を設定する。必要な情報＝目的意識
 - ・シンキングツールの利用。総合的な学習の時間等、他教科・領域との関連も図る。
- 子どもたちの語彙を増やしたり広げたりする
 - ・授業の中で、文章に出てくる語彙の確認をしたり、辞典を積極的に利用させたりする。
 - ・語彙を豊かにするために、ICT を活用する。

【算数・数学】

- 各学年での基本的な学習内容の定着を図る。
- 基本的な問題を繰り返し練習し、問題を解く時間も意識させる。
- 数直線と分数の対応を理解させる。
- 計算のきまりの習熟と計算のきまりを使った問題作りなどをして定着を図る。
- 活用問題を扱う授業を取り入れる。
- 情報を取捨選択する問題で、何を使って答えないといけないかを読み取らせる。
- 事実、理由、方法の説明などを意識して、思考・判断・表現をさせる場面を設定する。

○図形に関する問題を定着するまで繰り返し学習する。

【英語】

「小学校との接続と発信力」

○自分のことについて話したり、書いたりする活動を毎時間行う。

- ・生徒が楽しく取り組めるような工夫をし、身の回りのことや自分の気持ちなどを言う場面を増やす。
- ・自分のこと、自分の意見、地域や日本のことなどの話題について発信力を高める指導を行う。
- ・日常的な話題について、まとまりのある内容で話したり、学校のルールや社会的などについて聞いたことについて話す機会を設ける。

○小学校の学習内容と関連づけて、音声で十分慣れ親しんだ英文を、読む・書く活動につなげる。

- ・中学校3年間を通じて、発音とつづりを関連づけて丁寧に指導する。
- ・音声を中心にした活動を行い、発音とつづりを関係づけて丁寧に指導する。
- ・文構造（語順）を意識しながら英文を読んで、書く活動を行う。

○技能統合型の指導、特に、要点を捉えて思考・判断したことについて、自分の考えを書かせる活動を行う。

- ・まとまった文章を読んで、事実や自分の気持ちや考えを整理して英文を書く活動を単元に複数回仕組む。

□ 学校全体で取り組む授業改善

○各学校の「授業改善の5点セット」における検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながらPDCAサイクルを機能させる。

○学習の見通しを持たせ、学習に対する興味・関心・意欲を高める「めあて」、学びの成果を実感し、学習活動を自ら振り返り意味付ける効果的な「振り返り」、主体的な学びを生み出すとともに、「わかった」「できた」を実感させるような、子どもにとって追及する価値のある「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」の設定を確実に行う。

○児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、様々な人との対話・協働により、異なる考え方を組み合わせたり、よりよい考えを生み出したりする等、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業を工夫する。

○【言語能力】教科を問わず指導過程の中で、教科書を含む各種資料を適切に読み取れる工夫を行う。また、根拠や理由を明確にしながら自分の考えをまとめ、表現するといった対話的な学びの場を設け、話す・聞く、書く力を育成する。

○【言語能力】自分の考えを広げたり、深めたりするために「目的」「状況」「場面」意識した交流の場を設定する。また、思考ツールや「言語活動育成ハンドブック」を活用し、各教科等における思考力・判断力・表現力を育成する。

○全国学力・学習状況調査の結果の分析を確実にを行い、「授業アイデア例」等を積極的に活用する。

□ 確かな見取りと個に応じた指導の充実

○つきたい力を明確にし、「具体的な評価規準」や「評価基準」に基づく確かな見取りと「努力を要する状況」の児童生徒や特別な配慮を必要とする児童生徒への具体的な手立てを講じる。必要に応じて個別指導や補充学習を行う。

□ 町標準学力調査を活用する

○12月末、小学校4年生～中学校2年生全員を対象に町標準学力調査（小学校は、国語・算数・理科、中学校は、国語・社会・数学・理科・英語）を実施し、結果を各学校の授業改善に生かす。

○調査結果をもとに、各学校で1年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにし、次年度につなげる。

□ 家庭、地域との連携

○規則正しい生活習慣づくりのため、「10（11）—7—1運動」「テレビやゲームは1日2時間以内」の推進を図る。

○学校運営協議会等を通じて、学校の教育目標や児童生徒の課題とその解決について理解・協力を要請する。

【 日 出 町 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度

国語 66.5%（全国比 +9.1%） 算数 57.4%（全国比 -0.2%）

英語 79.1%（全国比 +12.4%）

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の問いに、78.7%（R7:84.4）（全国77.6）が肯定的に答えている。

○「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の問いに、87.4%（R7:89.3）（全国80.8）が肯定的に答えている。

○「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の問いに、肯定的に答えている児童は87.4%（R7:80.9）で、全国平均に比べ、5.7ポイント高い。

○「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」の問いに、肯定的回答が81.7%（R7:72.9）で、全国平均より3.6ポイント高い。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」の問いに、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えている児童は66.9%（R7:55.3）で、全国平均よりも1.9ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

○「朝食を毎日食べていますか」に対して、87.4%（全国83.1%）が「毎日食べている」と答えている。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに肯定的に答えた児童は88.3%で、全国平均に比べ2.7ポイント高い。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに、肯定的に答えている児童は91.8%で、全国平均に比べ、0.4ポイント高く、昨年度より2.8ポイント下向した。

○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、2時間以上と答えている児童は9.6%（R7:12.3）で、全国平均に比べ、2.1ポイント高い。

生徒質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度

国語 67.9%（全国比 +10.7%） 数学 66.3%（全国比 +10.2%）

英語 59.0%（全国比 +7.8%）

○「学校の授業時間以外に普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「2時間以上する」と答えた生徒は30.4%（R7:54.4）で、全国平均より9.2ポイント高い。

○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「3時間以上する」と答えた生徒は19.0%（R7:44.4）で、全国平均より11.0ポイント高い。

○「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の問いに79.3%（全国70.8）が肯定的に答えている。

○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の問いに、肯定的に答えている生徒は89.8%で、全国平均よりも2.8ポイント高い。

- 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問いに、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えている生徒は78.0（R7:44.8）で、全国平均よりも0.2ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 「朝食を毎日食べていますか」に対し、81.0%の生徒が「食べている」と答え、全国平均とに比べ、2.6ポイント高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、66.2%（R7:71.6）で、全国平均より1.4ポイント低い。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、83.1%（R7:90.0）で、全国平均に比べ、2.3ポイント低く、昨年に比べ、6.9ポイント低い。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに肯定的に答えた生徒は、68.7%で、全国より3.2ポイント低い。

2 日出町の児童生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

- ・中学校では数学（66.3%）や国語（67.9%）の好意度が全国を10ポイント以上上回る。これは単なる「解法の習得」に留まらず、学習内容が将来役に立つという「有用感」を実感させる指導や、間違えた箇所を教師が丁寧に解説する（中91.6%）といった、個に応じた学習支援が成果の要因と考えられる。
- ・「友達との話し合いで自分の考えを深めている」との回答が、小学校で90.4%、中学校で89.8%に達している。各校で「主体的・対話的で深い学び」が定着しており、自分の考えを否定されない安心感のある学級風土が、学習の質の向上を支えている。
- ・授業でのPC・タブレット活用頻度（ほぼ毎日）は、小36.5%、中46.4%に留まり、ICT活用の日常化への課題が挙げられる。検索や文書作成等の基本スキルは高い（中9割以上）ものの、授業内で「日常的な道具」として使いこなす場面の創出が、今後の定着における課題である。
- ・中学生の休日学習時間（3時間以上27.0%）が全国（13.1%）を大きく上回る。学校での課題解決的な学びが、家庭での「自ら学び、工夫する」意欲（中76.3%）へと繋がり、学校と家庭の学習がうまくリンクしていることが推察される。引き続き、家庭学習の質的向上を図っていく。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- ・朝食摂取率が小（87.4%）、中（81.0%）ともに全国平均を上回る。これは、町が推進する「10－7－1運動」の継続的な啓発と、家庭の協力が着実な成果として現れ、良好な生活リズムの定着に繋がっている。
- ・自己肯定感を育む信頼関係において、「自分にはよいところがある」と感じる児童生徒が約8～9割に上る。
- ・その背景には、「先生がよいところを認めてくれている」（小中91%以上）という教師との強い信頼関係があり、日々の承認が自己肯定感を育む土壌となっている。
- ・「困っている人を進んで助ける」割合が小（93.1%）、中（89.9%）と、規範意識と社会貢献欲が極めて高い。また、将来「人の役に立つ人間になりたい」と願う生徒も95.4%に達し、学校生活を通じて他者を思いやる心や社会への参画意識が順調に育まれている。
- ・学校を「楽しい」と感じる児童生徒が多い一方、困りごとを大人に相談できる割合は全国平均より低い傾向にある。相談体制と心理的安全性の確立が大切である。「自分と違う意見も否定されない」という学級の受容的雰囲気さをさらに強め、心理的安全性を高めていくことが、SOSを出しやすい環境づくりに不可欠である。

【 日 出 町 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問調査

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」に対し、昨年度に続き全ての学校が肯定的な回答をしている。各教科等の特質に応じ、言語活動の充実について、学校全体として取組を進めることができている。
- 「今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教員が多いですか」に対し、全ての学校で肯定的な回答となっており、先生方が主体的に取組の改善を進めている。
- 「児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT 機器をどの程度使用させているか」「児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」の質問について、肯定的に答えた学校は県平均・全国平均より少ない。ICT 機器の活用について、学校間で活用方法に差があることが課題とみられる。
- 「前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」の質問について、県・全国に比べると肯定率が低い。

中学校：学校質問調査

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」について、両校とも肯定的な回答となっている。生徒それぞれのよさを生かしながら、異なる視点から考えたり、話し合ったりできるような学習課題や活動の工夫の取組を進めることができている。
- 「今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教員が多いですか」に対し、全ての学校で肯定的な回答となっており、先生方が主体的に取組の改善を進めている。
- 「生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」の質問について、肯定的回答が県平均・全国平均と比べ少ない。

2 日出町の学校質問調査の結果をふまえて

- ・各教科のワーキンググループ会議で、各種学力調査に関する分析と対策を行うとともに、「町内全体で取り組みやすく、効果的」な授業改善の方法等を考え、学力向上推進委員会で提案する。学力向上推進委員会で、各校の学力向上に係る取組状況の交流や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行い、町内全体で取組を進めていく。
- ・ICT 機器の活用については、一人一台端末の児童生徒の使用法について、実践交流や研修の機会を設け、効果的活用・日常的使用について情報共有し、今後も推進していく。学校間で活用の差も見られたので、課題解決に向けた取組について協議を進めていく。
- ・校種を超えた校内研究会授業や公開授業への参加など、小中連携の取組の充実を進めてきた。研究会や研修会等の合同実施、教育課程の接続等についての協議を深めながら、小学校の授業実践や中学校の学習規律の共有、ICT 活用状況の共有を行い、子どもたちの学びを持続させ、9年間を見通した学力の定着を図るための取組を今後も進めていく。
- ・各校の学力向上会議や、日出町学力向上推進委員会等で、今回、質問紙調査で挙げた課題について共通理解を図り、小・中学校の取組に関する意見交流を行い、授業改善等の取組を連携して進める。